



ハ齋写



席をよよ月のまうけや松の座
 舟ありき海のみち水は冷つき
 宿の袖もきき通る雪の鼻
 手も水はしるる雪はうつくし
 ららりとくは淡雪のちり
 りありをよゆハ大きうあうり
 せんろう減くま極のつけ餅
 うるる蒸きうぬる医者よよ
 笑あそむをハ帰る妹
 福若くあうよあり一梅の字
 とちをよそも里を茶の秋
 るやの戸よま付つ草のよ上ら
 ぬせ入痛る布と子部ら出る
 とししくよや増花の賑ハさ
 雪もろつあく麗ふ
 軒の松石よ懐しの来時を
 乞しよは時あひ十八を満尾
 せし世し多大事多んや
 来月とややまう世中不
 南歌
 安人
 文風
 秋人
 水水
 雪人
 樵人
 吾人
 乙人
 其世
 法英
 梅人
 梅の
 小宮
 学活
 葉人
 徐来
 龜人
 安人

壬午秋

